



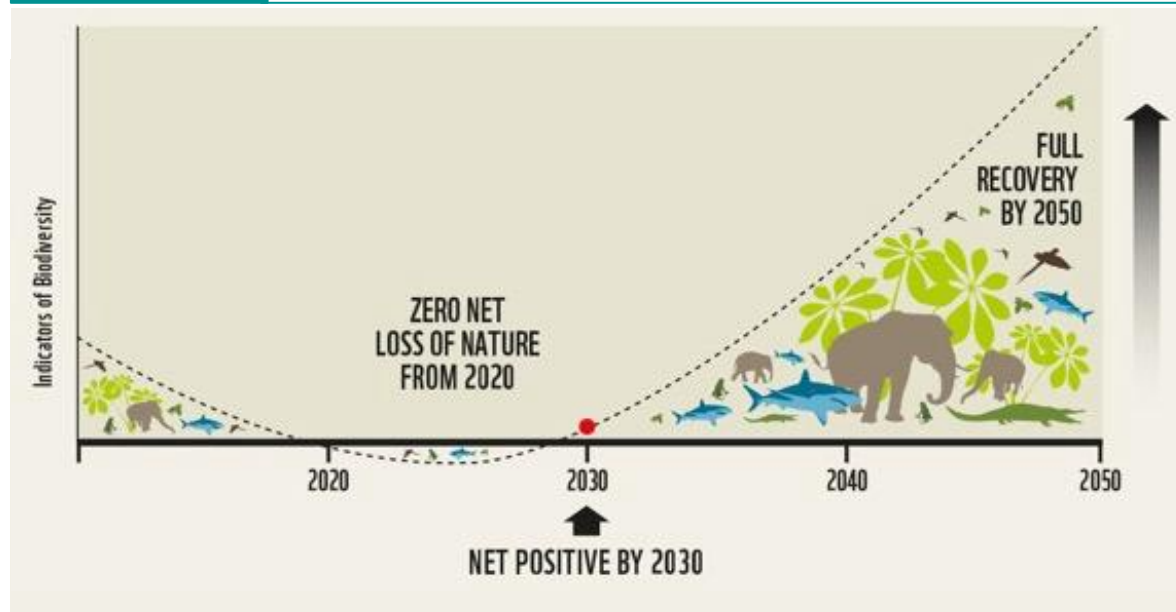
イントロダクション

2023年8月3日
WWFジャパン 金融グループ
橋本 務太

WWFジャパンが目指すこと

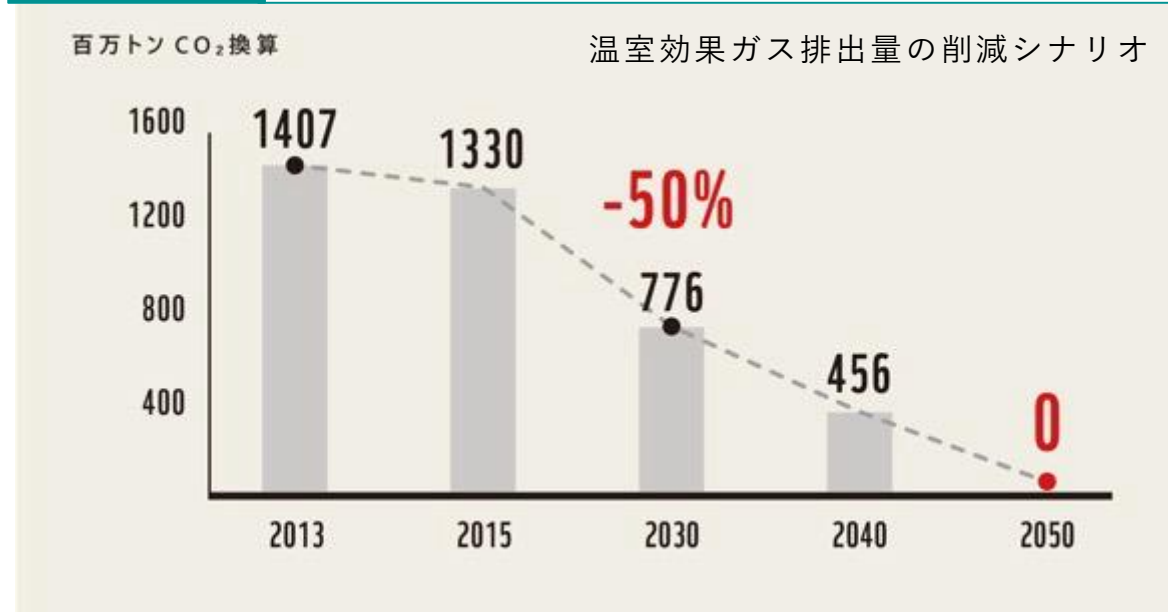
環境問題は今や、多くの野生生物を絶滅の危機に追い込むのみならず、私たちの暮らしと未来に深刻な影響を及ぼしています。2021年に活動開始から50年を迎えたWWFジャパンは、2030年、さらにその先の未来に向けた2つの大きな目標を掲げています。

目標 1 2030年 生物多様性の回復



世界の生物多様性を回復させる。
そのために、2030年までに
生物多様性の劣化を回復に向かわせる
(ネイチャーポジティブ)

目標 2 2050年 脱炭素社会の実現

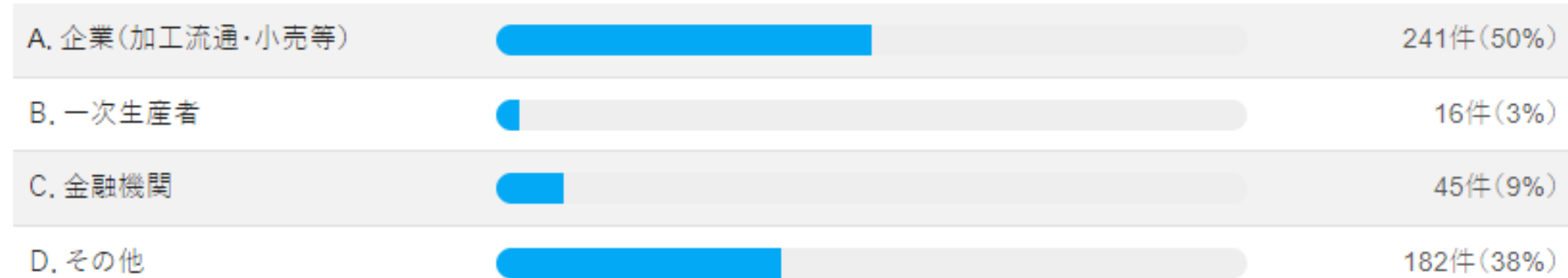


2050年までに、世界の二酸化炭素の排出ゼロを実現する。
そのために、2030年までに、
日本の温室効果ガスの排出量を50%削減する

事前アンケートから

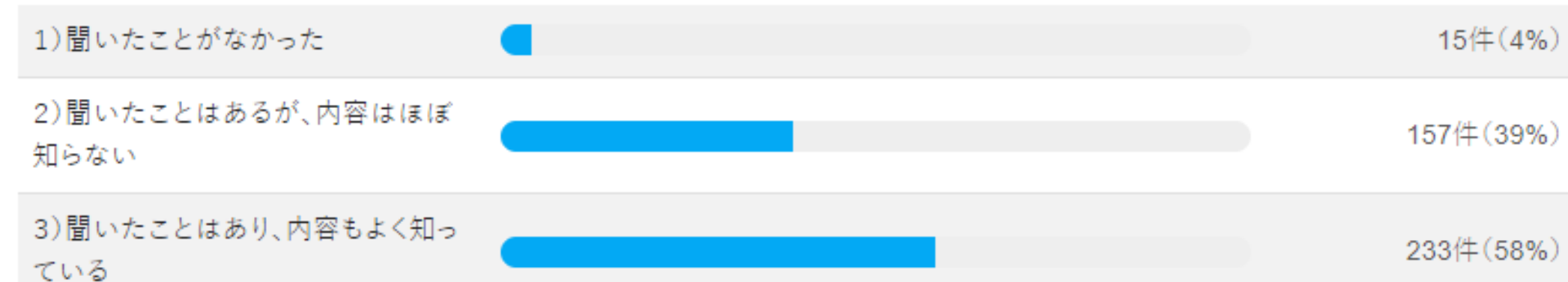
1) 以下の選択肢から、ご所属の最も近い内容をお選びください

回答数 484件



2) TNFDについてはご存知でしたか？

回答数 405件



TNFDについて

TNFDの概要

TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）とは

- TNFDは、事業会社や金融機関が自然に関連するリスクと機会について、情報開示するフレームワークを作る取り組み
- TNFDの目的は、ビジネスの自然への依存・影響・リスク・機会などを開示することで、究極的には資金の流れをネイチャーポジティブに向かわせること

TNFDの開示推奨項目 （TNFD v0.4日本語版より）

TNFD自然関連情報開示提言（v0.4）			
ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。	自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的なインパクトを、そのような情報が重要である場合に開示する。	組織が、自然関連の依存、インパクト、リスク、機会をどのように特定、評価、管理しているかを開示する。	自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を評価し管理するために使用される測定指標とターゲットを開示する（かかる情報が重要である場合）。

TNFDの設立と組織構造

2021年6月設立、2名の共同議長



David Craig

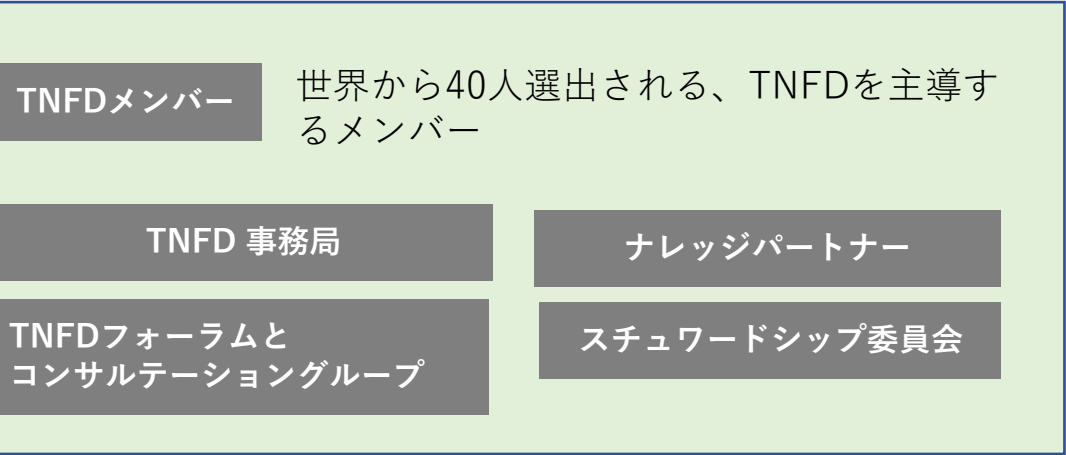
リフィニティブ (Refinitiv) CEO
ロンドン証券取引所データ分析部リーダー



Elizabeth Maruma Mrema

生物多様性条約 事務局長
元国連環境計画 (UNEP) 生態系部門副部長

中心となるのはTNFDメンバー



出典：TNFD nature in scopeより筆者改変

日本のTNFD

日本のTNFDメンバー

原口真 氏 (MS & AD Insurance Group)
秀島弘高 氏 (農林中央金庫)

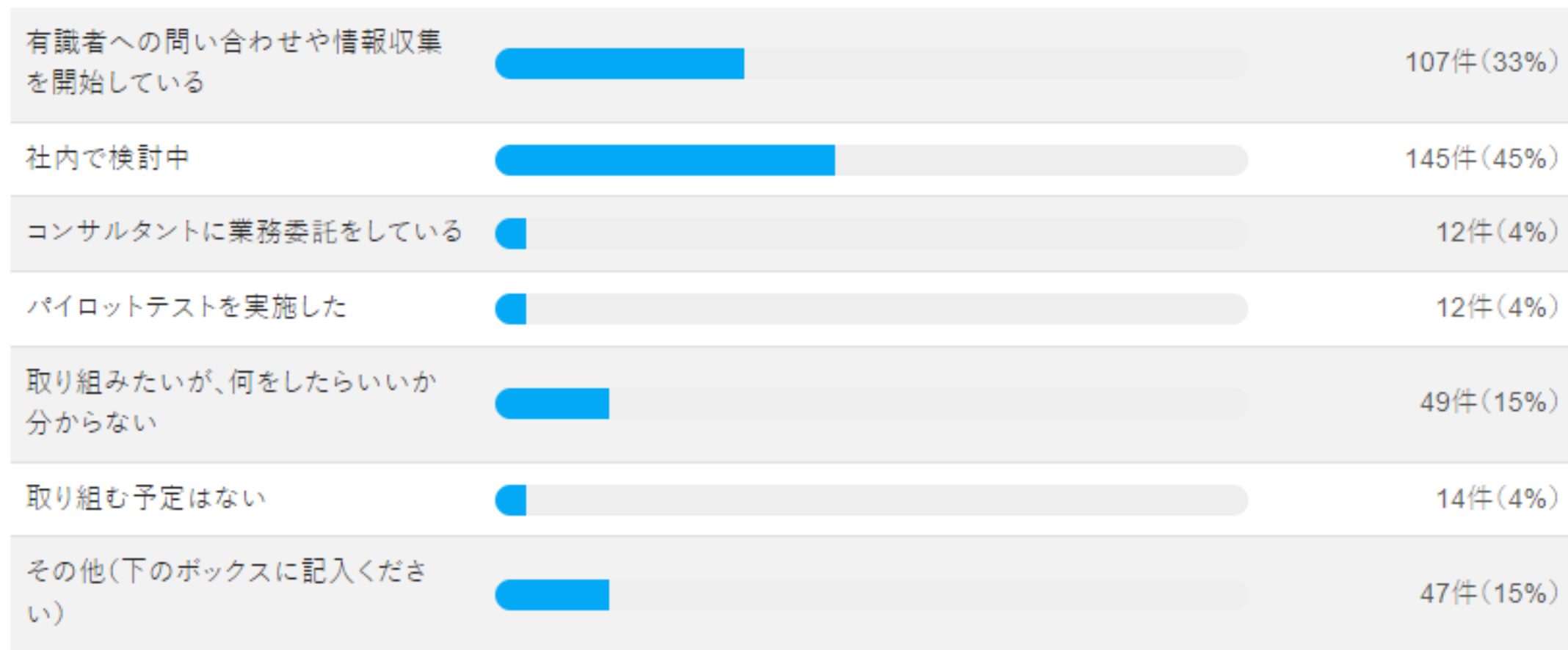
TNFDフォーラムメンバー (順不同、抜粋。一部略称)

銀行、HDs	三井住友FG、MUFG、みずほFG、ゆうちょ銀行、九州FG、農林中金、千葉銀行
資産運用	アセットマネジメントOne、大和AM、三菱UFJ信託銀行、りそなAM、三井住友信託、野村AM
生保・損保	住友生命、第一生命、日本生命、東京海上HD、損害保険ジャパン、MS&AD、かんぽ生命保険
証券、その他	大和証券G、DBJ、JBIC
商社	伊藤忠、丸紅、三菱商事、三井物産、住友商事、双日
食品	キリン、アサヒ、サントリー、明治
その他	花王、住友林業、積水ハウス、NEC、ホンダ、日産自動車、パナソニック、INPEX、丸井グループ、野村不動産、清水建設、大成建設、横浜ゴム、ヤマハ、住友化学、大東建託、JAL、セブンアンドアイ、ファミリーマートなど
行政・団体	金融庁、環境省、経団連自然保護協議会、全銀協、日本公認会計士協会など

事前アンケートから

3) TNFDへの取組状況はどのような段階ですか？

回答数 324件

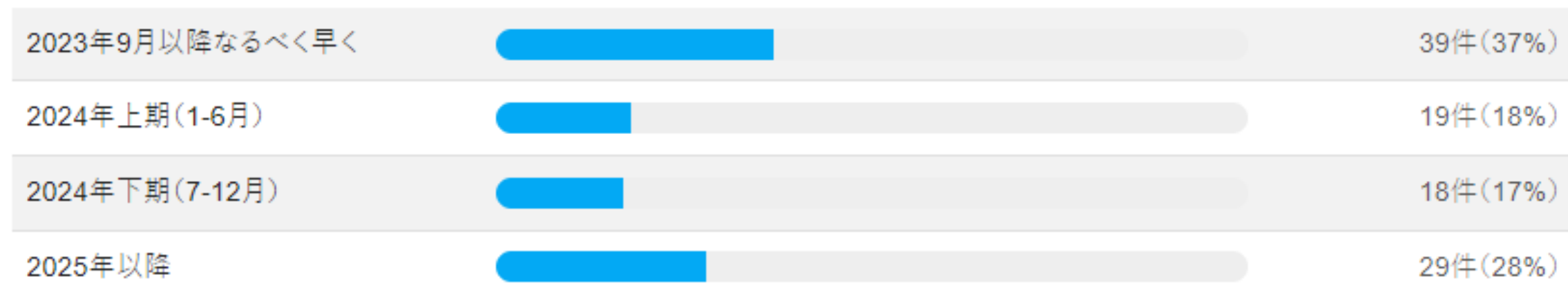


※申し込み総数553名、8/1時点での情報

事前アンケートから

4) TNFDの開示予定がある方は、いつごろに開示を予定していますか？

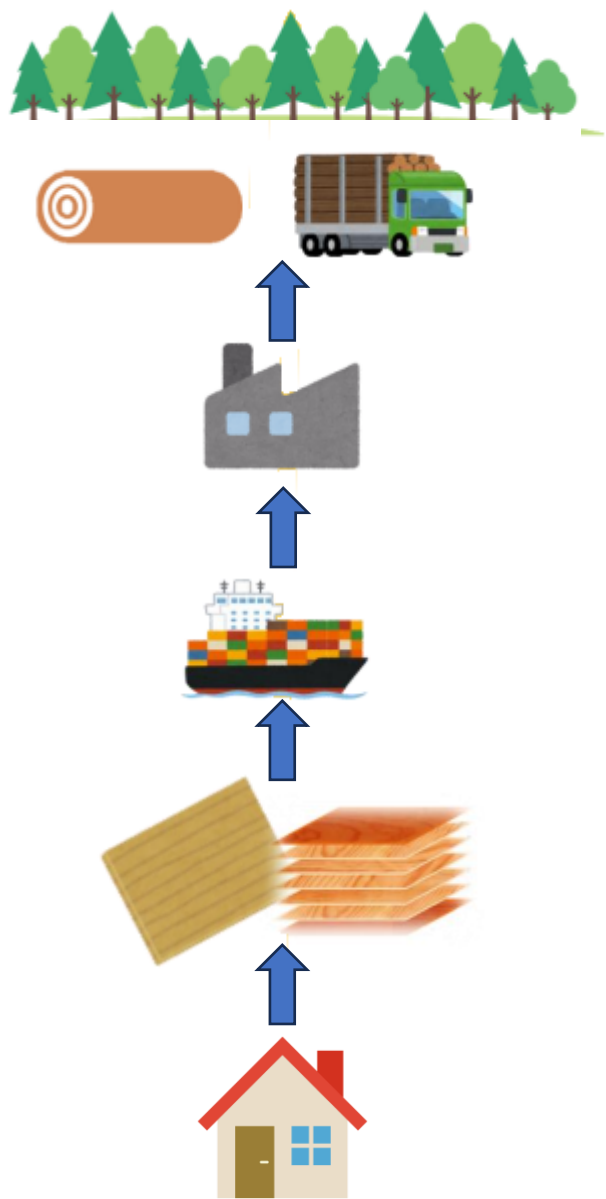
回答数 105件



※申し込み総数553名、8/1時点での情報

責任ある調達について（木材・紙）

企業活動と生物多様性の接点：原料調達



世界の森林減少は、農林産物の生産にも関連して発生

対策として、

- トレーサビリティを確立し、原産地を確認する
- 企業や消費者の声で、森林破壊や人権侵害を防ぐことが最近の目的

ただし、

- 原料をたどることは簡単ではない
- 原産地が分かったとして、そこにどのような自然があるか、管理がなされているかを知るのも簡単ではない

原料生産の適切性を見るツールとして、森林分野ではFSC®認証制度などが発展してきた

FSCの概要と役割



小
売



消
費
者

事業会社のリスク管理ツールとして

- 違法伐採でないことの確認
- 森林破壊ゼロや人権侵害を防ぐ企業方針の順守を確認

消費者による選好

FSC – FM認証の10の原則



1
法律や国際的なルールを
守っていること



2
働く人の権利や安全が
守られていること



3
先住民族の権利を
尊重していること



4
地域社会を支え
良い関係を築いていること



5
さまざまな森の恵みを活かし
それらを絶やさないこと



6
豊かな森林の
自然環境を守ること



7
いろいろな意見を聞きながら
森の管理を計画すること



8
森の管理の状態を
定期的にチェックすること



9
環境や文化など、その森が
もつ大切な価値を守ること



10
環境に配慮した管理活動を
きちんと実施していくこと

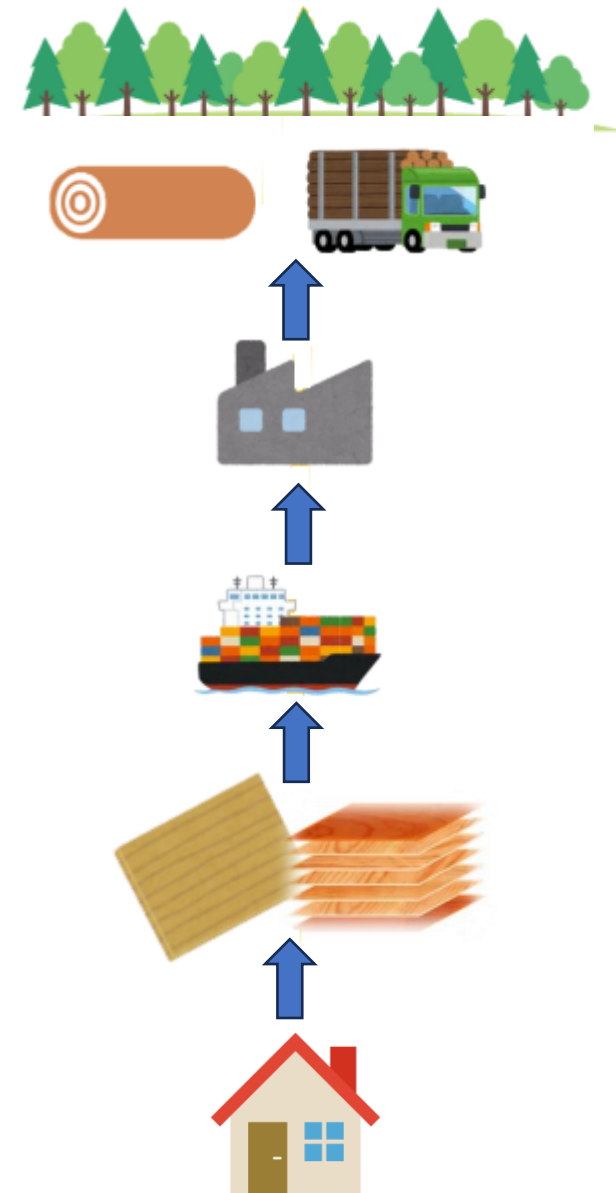
TNFDと責任ある調達の関係

TNFDと調達

TNFDでは、まず、**自社事業と自然との接点**を明らかにすることが期待されている。

TNFDは、スコープの概念を以下のように整理

- 直接操業（例：自社工場周辺など）
- **上流（バリューチェーン上流：調達）**
- 下流（バリューチェーン下流）
- 投融資先（金融機関向け）



TNFDの全体像

LEAP

開示に必要な情報を抽出していくためのガイダンス



開示推奨項目

最終的に開示する項目

TNFDの開示推奨項目 (TNFD v0.4日本語版より)

TNFD自然関連情報開示提言 (v0.4)			
ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。	自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的なインパクトを、そのような情報が重要である場合に開示する。	組織が、自然関連の依存、インパクト、リスク、機会をどのように特定、評価、管理しているかを開示する。	自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を評価し管理するために使用される測定指標とターゲットを開示する（かかる情報が重要である場合）。

Additional and Technical Guidance

Sector Guidance



Biome Guidance



Scenario Guidance



Stakeholder Engagement Guidance



Metrics, Targets & Data Guidance

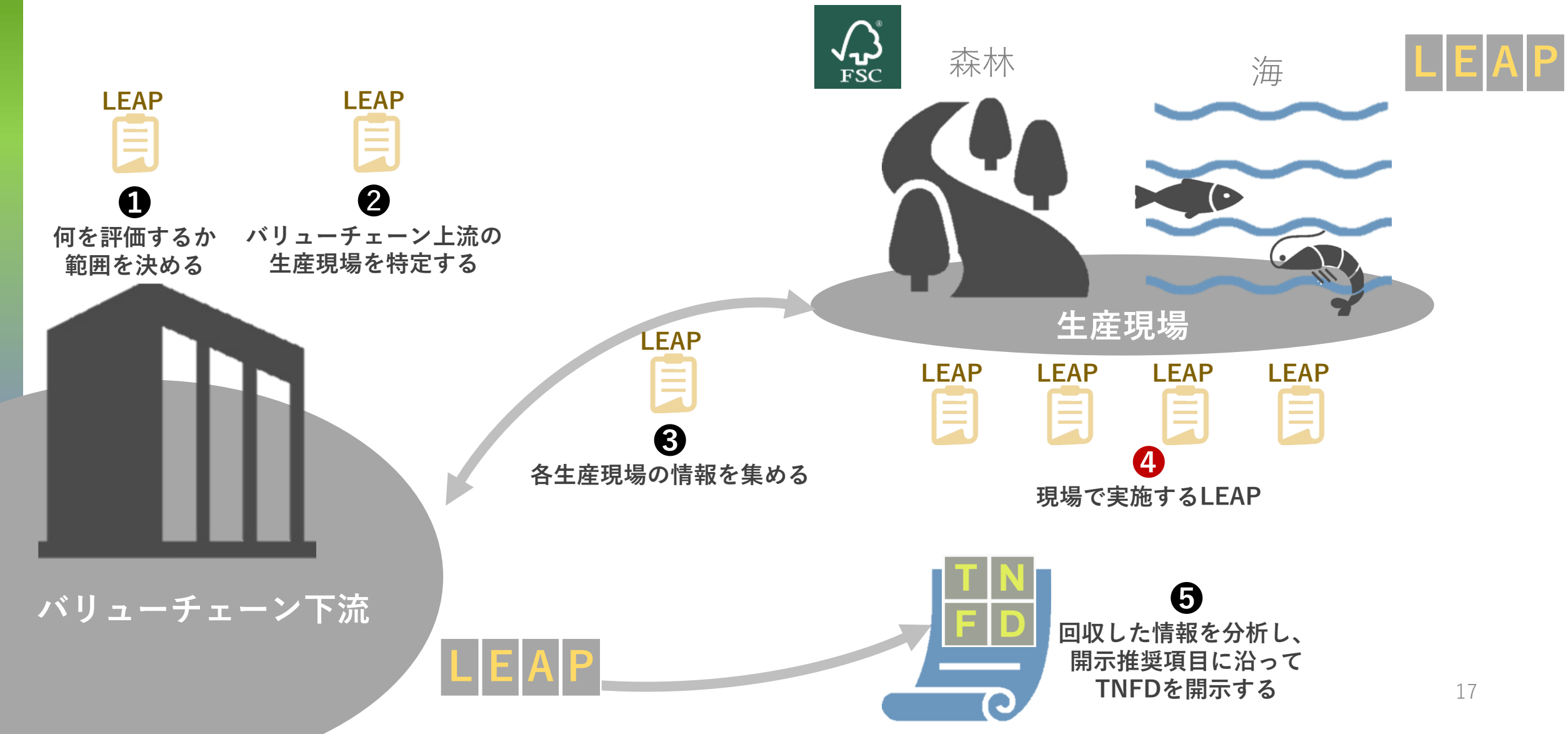


様々な
ガイダンス

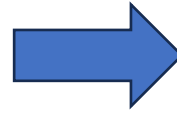
TNFDはLEAPアプローチという取り組みのガイダンスを提示

C スコーピング			
L 発見する 自然との接点	E 診断する 依存関係と影響	A 評価する 重要なリスクと機会	P 準備する 対応し報告する
L1 ビジネスの フットプリント 当社の直接の資産とオペレーションはどこにあるのか、当社に関連するバリューチェーン（上流と下流）活動はどこにあるのか？	E1 関連する環境 資産と生態系 サービスの 特定 各優先地域で行われている自社のビジネスプロセスと活動は何か？各優先地域でどの環境資産と生態系サービスに依存関係あるいは影響があるか？	A1 リスクと機会の 特定と評価 当社の組織に対応するリスクと機会は何か？	戦略とリソース配分 P1 戦略と リソース配分 この分析の結果、下すべき戦略と資源配分の決定は何か？
L2 自然との接点 これらのアクティビティが接点を持っている生物群系や生態系はどれか？各地域の生態系の現在の完全性と重要性は何か？	E2 依存関係と 影響の特定 各優先地域において、当社の事業全体に関わる自然関連の依存関係や影響は何か？	A2 既存リスクの 軽減と リスクと機会の 管理 既存のリスクを軽減・リスクと機会を管理するアプローチで、すでに適用しているものは何か？	P2 パフォーマンス 測定 どのように目標を設定し進捗度を定義・測定するのか？
L3 優先地域の 特定 組織とそのバリューチェーンは、どの場所で生態系の完全性が高い地域、急速に低下している地域、生物多様性の重要性が高い地域、水ストレスを抱えている地域、および／または重大な依存関係や影響が潜在している地域で活動しているか？	E3 依存関係の分析 各優先地域における自然への依存関係の規模、程度はどの程度か？	A3 追加リスクの 軽減と リスクと機会の 管理 追加で検討すべきリスク軽減・リスクと機会を管理する行動は何か？	開示アクション P3 報告 TNFD開示提案に沿って、何を開示するのか？
L4 セクターの 特定 どのセクター、事業部門、バリューチェーン、アセットクラスがこのような優先地域で自然と接点を持つか？	E4 影響の分析 各優先地域における自然への影響の規模、程度はどの程度か？	A4 リスクと機会の 重要性の評価 重要なリスクと機会と、TNFDの開示提案に沿って開示すべきリスクと機会は何か？	P4 公表 自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか？

実際のLEAP



本日のセミナーの背景・目的



生産現場でのLEAPを回してみても

木材関連セクター：

建築、建設、ディベロッパー、商社、製紙、印刷、包装、バイオマス発電など

- こうしたセクターの企業は、TNFD開示のため、トレーサビリティをつなぎ、自然関連のリスクや機会の分析を行うことが期待されている
- トレース先がFSC認証林であった場合、LEAPアプローチに基づき、どの程度情報を得ることができるか検証することを目的にパイロットテストを実施

生産現場で実施するLEAPで入手できる情報は2つのタイプがある

- ① バリューチェーン下流の企業によるTNFD開示に資する情報
- ② 生産現場の企業によるTNFD開示に際して、検討材料となる情報

本日は、主に①に焦点をあてて紹介

ありがとうございました。

WWFジャパン 金融グループ
橋本 務太